

## KJ法クイックマニュアル

田中 博晃  
広島国際大学

### 概要

本論では KJ 法の手順を簡便にまとめた「KJ 法クイックマニュアル (2013 年版)」の提示を行う。KJ 法にはいくつかの流派やバージョンが存在するが、本論のマニュアルは川喜田 (1997) の 1997 年版の KJ 法を基にしている。このクイックマニュアルでは、KJ 法のプロセスである、下準備、ラベル作り、ラベル拡げ、ラベル集め、表札作り、図解化、叙述化の流れにそって、各段階の手順と注意事項、KJ 法のコツの提示を行う。

**Keywords:** KJ 法, マニュアル, 分析手順

### 1. はじめに

質的研究法は近年の英語教育学研究の分野で注目されている一方、実際に質的研究を用いた研究論文数は限られる。そこで本論では質的データの分析方法の 1 つである KJ 法 (川喜田二郎, 1967, 1986, 1997) の手順を簡便にまとめた「KJ 法クイックマニュアル (2013 年版)」を提示する。KJ 法は、民族地理学者の川喜田二郎によって開発された発想法で、1951 年に雛形が生まれた非常に伝統のある研究方法である。本論では川喜田 (1997) 版の KJ 法をマニュアル化した形で提示することで、英語教育学研究の分野での質的研究の発展の一助となることを目指す。

### 2. KJ法の全体像

KJ 法は大きく分けて 4 つのステップから構成される。つまり、データをラベル化するラベル作り、ラベルをグループにまとめるグループ編成、グループを解釈可能な形に並べる図解化、そして図解化を解釈した叙述化である (図 1 参照)。

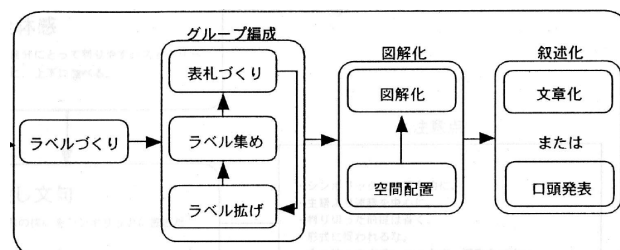


図 1. KJ 法の大まかな手順 (川喜田, 1997 より)

### 3. KJ法クイックマニュアル（2013年版）

図1のKJ法大まかな流れを基に、各段階で行う作業と注意事項をマニュアル化したものが図2である。

0. 下準備	<b>データの加工と道具の準備</b>
	<p><b>【KJ法を行う際のコツ】</b></p> <p>①音声データの場合は文字起こしを行う。</p> <p>②清書用模造紙，マジック（数色），ボールペン，点メモ用の紙，名刺大のラベル，清書用のラベルを用意する。</p> <p>③ラベルは裏にシールが付いている用紙が良い。ただし付箋は剥がれやすいので，清書には不向きである。</p>
1. ラベル づくり	<b>データをラベルに転記</b> (あるいは，データから読み取れるメッセージをラベルに記入)
	<p><b>【KJ法を行う際のコツ】</b></p> <p>①1つのラベルには，1つのメッセージが読み取れるデータを入れる。</p> <p>②ラベルは手書きではなく，清書用ラベルに直接プリントアウトすると，清書とタイピングの手間が省ける。</p> <p>③ラベルには通し番号をつけ，基データにも同じ通し番号を記載しておく。</p>
2. ラベル 拡げ	<b>ラベルを机の上に並べる</b>
	<p><b>【KJ法を行う際のコツ】</b></p> <p>①並べる順番はランダムが良い。</p> <p>②広い机の上や床の上で行う。</p> <p>③模造紙は清書の際に使うので，ここでは不要である。</p>
3. ラベル 集め	<b>内容の似たラベルを集めて小グループ化</b>
	<p>①内容からボトムアップでグループを作るので，事前にカテゴリーを想定してグループ化しない。</p> <p>②小グループから作成する。</p> <p>③どのグループにも入らないラベルはそのままが良い。</p>

<p>4. 表札づくり</p>	<p style="text-align: center;"><b>グループの内容を要約した表札の作成</b></p> <p><b>【KJ法を行う際のコツ】</b></p> <p>①小グループの段階では、表札は文章で作成する。  ②理論や専門用語に無理やり当てはめた表札は避ける。  ③表札は研究論文や発表で最も目立つ箇所である。  ④表札には通し番号を付け、データの通し番号も記載する。  ⑤表札はカラーマジックで清書することで、空間配置がスムーズになる。  ⑤完成したグループは表札を上ラベルを重ね、クリップでまとめる。</p>
<p>5. 第2段の グループ編成</p>	<p style="text-align: center;"><b>小グループをより大きなグループに集約</b></p> <p><b>【KJ法を行う際のコツ】</b></p> <p>①手順は2～4と同じである。  ②第1段とは別の通し番号を付けて区別する。  ③第1段とは別の色のマジックで表札の清書を行う。</p>
<p>6. 第3段の グループ編成</p>	<p style="text-align: center;"><b>さらに大きなグループに集約</b></p> <p><b>【KJ法を行う際のコツ】</b></p> <p>①第2段とは別の通し番号を付けて区別する。  ②第2段とは別の色のマジックで表札の清書を行う。  ③解釈可能なグループ数になるまで、グループ編成を繰り返す。</p>
<p>7. 大グループの 空間配置</p>	<p style="text-align: center;"><b>ラベルを解釈しやすい順番に並べる</b></p> <p><b>【KJ法を行う際のコツ】</b></p> <p>①この時点で模造紙の上に大グループのラベルを並べる。  ②ただしくリップどめをバラさずに空間配置を行う。  ③グループ数が多すぎると、図が複雑になりすぎて解釈困難になる。  ④空間配置が終わった段階でラベルをばらす。</p>
<p>8. 中グループの 空間配置</p>	<p style="text-align: center;"><b>中グループを解釈しやすい順番に並べる。</b></p> <p>①7.と同じ手順で行う。  ②次により小さいグループの空間配置を順次行う。</p>

	<b>ラベルと表札の貼り付け</b>
9. 図解化	<p><b>【KJ法を行う際のコツ】</b></p> <p>①はじめは、ラベルと表札を模造紙に仮留めする。</p> <p>②鉛筆でラベルをグループごとに囲む。</p> <p>③鉛筆でグループごとの関係を関係線で結ぶ。</p> <p>④関係線は大きいグループから結ぶ。</p> <p>⑤関係線は研究目的に合わせて最小限とする。</p>
	<b>図解化の解釈</b>
10. 文章化	<p><b>【KJ法を行う際のコツ】</b></p> <p>①論理的な矛盾，データからの解釈の逸脱に注意を払う。</p> <p>②妥当に解釈できれば，文章化し，図解をマジックで清書する。</p>

図 2. KJ 法クイックマニュアル (2013 年版)

#### 4. まとめ

本論では KJ 法の流れを簡便に参照できる「KJ 法クイックマニュアル (2013 年版)」の提示を行った。ただし、このマニュアルはあくまで概略を提示しているため、実際に KJ 法を行う際は、このマニュアルに加えて KJ 法に関する専門書を参照する必要がある。本論で提示した 1997 年版の KJ 法の手順に関する文献は、川喜田 (1997)、田中 (2011, 2012a) が挙げられる。また KJ 法の評価に関しては田中 (2012b)、KJ 法を用いた研究例としては中西 (2011)、田中 (2013, 印刷中)、山中 (2012) が挙げられる。

#### 参考文献

- 川喜田二郎 (1967) . 『発想法－創造性開発のために』 . 中央公論社.
- 川喜田二郎 (1986) . 『KJ 法－混沌をして語らしめる』 . 中央公論社.
- 川喜田二郎 (1997) . 『KJ 法入門コーステキスト 4.0』 . KJ 法本部・川喜田研究所.
- 中西のり子 (2011) . 「研究の目的に合わせた KJ 法の応用」『より良い外国語教育のための方法－外国語教育メディア学会関西支部メソドロロジー研究部会 2011 年度報告論集』, 92-105.
- 田中博晃 (2011) . 「KJ 法入門：質的データ分析法として KJ 法を行う前に」『より良い外国語教育のための方法－外国語教育メディア学会関西支部メソドロロジー研究部会 2010 年度報告論集』, 17-29.

- 田中博晃（2012a）．「KJ 法入門－発想や仮説を得るには」．竹内理・水本篤（編著）『外国語教育研究ハンドブック－研究手法のより良い理解のために－』．
- 田中博晃（2012b）．「質的研究に関する Q&A －もう少し深く質的分析を知るには」．竹内理・水本篤（編著）『外国語教育研究ハンドブック－研究手法のより良い理解のために－』．
- 田中博晃（2013）．「動機づけを高める方略の修正と効果検証：特性レベルの動機づけを高める教育的介入」．*JACET Journal*, 56, 87-106.
- 山中梓（2012）．「高校生の自尊感情と外国語コミュニケーション不安の関係」『第 38 回全国英語教育学会愛知研究大会発表予稿集』, 160-161.